

平成26年度 文部科学省委託事業

職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進

「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証

インストラクショナルデザインおよびアクティブラーニングを使いこなす  
教員養成研修モデルの開発・実証

---

# インストラクショナルデザイン

## 《 指導書 》

---

## 目次

はじめに .....	- 3 -
第1章 指導要領と実証講座実施マニュアル .....	- 5 -
第2章 実証講座実施記録 .....	- 13 -
第3章 事前アンケート集計結果 .....	- 15 -
第4章 事前Eラーニングコンテンツ .....	- 25 -
第5章 実証講座テキスト .....	- 27 -
第6章 実証講座受講者アンケート .....	- 28 -
第7章 講座の課題と今後の展望 .....	- 32 -
第8章 実証講座評価 .....	- 32 -



より実践的な能力の育成が必要な職業実践専門課程と、ID の基本である授業における「目標を行動まで具体化し、明確化する」という特徴が合致する。学科で行う教科目のシラバス（教科目内の進行計画）のより効率的な作成にも ID を取り入れることができ、ID を支える理論である ARCS、9 教授事象を取り入れた方略の作成を行うことにより、職業実践専門課程の認定条件である「企業と連携した品質の高い実習、実技、演習の授業」を目指すことができる。ID の基本的なプロセスである ADDIE モデルと、職業実践専門課程の求める「実践的な職業教育の水準の維持向上」を図るうえで重要な PDCA サイクルの実行が合致する。教員、学生が ID を用いそれぞれ PDCA サイクルを回しながら、教員はノウハウを蓄積しその蓄積を活かしたさらなる授業の品質向上と産学連携に繋がっていけると確信している。

この点を踏まえ、講座では ID を使って自らの授業のシラバス、授業計画を作成できるよう計画した。この講座の内容が、職業専門学校の授業の質的向上の一助となれば幸いである。

## 第1章 指導要領と実証講座実施マニュアル

事前研修	2 時間
E ラーニング ※E ラーニング内容に関しては第 4 章 e ラーニングコンテンツを参照	90 分
事前アンケートによる確認 自分の授業が今どの程度 ID を取り入れられているかを確認する ※アンケート内容に関しては第 3 章事前アンケート集計結果を参照	30 分
実証講座 ※内容に関しては次ページを参照	13 時間

<p><b>【1. 科目名】</b> 「インストラクショナルデザイン」</p> <p><b>【2. 担当講師】</b></p> <p><b>【3. キャリアパス】</b></p> <p><b>【4. 必修・選択区分】</b></p> <p><b>【5. 研修形態】</b> 講義、演習、グループワーク等による</p> <p><b>【6. 履修時間】</b> 12時間（2日間）</p> <p><b>【7. 研修の概要と目標】</b> 職業実践専門課程として企業等のニーズを取り入れるカリキュラム・シラバスの作成ができる教員の養成を目的とした。 企業のニーズ（知識・技術等）を学生がより高い水準で習得できるように、インストラクショナルデザインを用いて、産学連携などの多様な教育手法も活用し、体系的なカリキュラムの編成を行い、目標とする人材像に必須のスキル、もしくはその評価基準を可視化したシラバスの作成が行えるように構成した。事前に e ラーニングで基礎知識を学んでから研修に臨んだ。 また、教員同士が相互フィードバックし、教育設計を学びあう仕組みと土壌を作成することも目的としている。今回の事前 e ラーニングは知識を得る場だったが、事後と合わせて、ゆくゆくはオンライン上で学校を超えた教員同士が学び合う仕組みを用意する予定である。</p> <p><b>【8. 中堅教員研修における本科目の位置付け、受講後の効果】</b> 本科目は、まずは学内の ID 導入に関してリーダーシップを取れる教員に受けていただくものである。したがって、中堅教員研修に位置付けられる。目標を設定し、教員も学生も目標達成のために何をするかという PDCA を実践できるので、専修学校教員として必要なプログラムである。</p> <p><b>【9. 本科目の修了条件】</b> 知識を問う事後テストで 8 割の正答率、及び、コマンシラバス（指導方略表）作成演習で 8 割程度記述していること。完成していなくても修了とみなす。</p>	<p><b>【10. 配布資料一覧】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①タイムテーブル及び参加者名簿</li> <li>②オリジナルテキスト</li> <li>③テキスト内ワークシート別紙（要望があれば郵付）</li> <li>④研修会アンケート用紙（*研修2日目に記入、回収）</li> </ol> <p><b>【11. その他の配布物等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○名札 1人1個</li> <li>○模造紙 グループに2枚</li> <li>○模造紙用マーカー（黒、赤、青）グループに各2本ずつ</li> </ul> <p><b>【12. 機材】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○講師用 PC（スライド投影用）</li> <li>○プロジェクター （可能であれば）</li> <li>○受講者用 PC（ワークシート作成用。個人持参でも可）</li> <li>○（成果物が紙の場合）カメラ、またはカメラ付タブレット、PC ※成果物を撮影して、プロジェクタで投影</li> <li>○タイマー</li> <li>○マグネットかテープ（模造紙を張るため）</li> </ul>
--	--

進行時刻 の目安	単元ごとのテーマ・項目	所要 時間	内容等	教材等	方式
(1日目)					
13:00	オリエンテーション	10分	○開講のあいさつ、講師自己紹介	テキスト	
13:10	はじめに	10分	○研修のねらい		
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発の目的、講座の目標、そして ID とは何かを簡単に説明 授業はどのようにして設計しているか。前任の教員のシラバスをそのまま実行しているのではないだろうか。自分で設計した場合は、どのような考え方・手法で設計しているか。その手順が ID である。ID は教育の効果・効率・魅力を高めることができる。</li> <li>・対象 授業を設計した経験があまり教員、自己流に設計しているので自分のやり方の是非を確認したい、また若手の教員を指導する立場の教員にも適していることを説明</li> <li>・目標 ID の知識・手順を学び、自分の担当する授業の 1 回のコマシラバスを作成できることを目標とする。</li> </ul>		
13:20	グループワーク	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループワーク（自己紹介と情報・課題共有）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介（学校名、名前、担当教科、教員経験年数）</li> <li>・事前Eラーニングで学習したことの感想</li> <li>・教員として今回参加した理由と授業への課題</li> </ul> </li> </ul>		
		10分	○グループ代表者からどんな意見が出たか発表		
13:40	はじめに（続き） 第1章システムの教育設計の概要	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ID の概要、シラバスとの関連、ADDIE モデルを紹介</li> <li>○職業実践専門課程と ID との関係を図を使用して説明                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業のニーズが、学科・教科・科目の目標となる。教員はそれを学習の目標に落としてから、授業設計を行う。ID の ADDIE モデル（一般的には PDCA）を行うことで実践的な能力を育成することができる。</li> <li>・ID の利点、事例、様々な理論を紹介</li> </ul> </li> </ul> <p>今回とりあげなかった理論も含めて、いろいろな考え方がある。今回扱うことを知らせる。みなさんや、みなさんの学校で実践しているやり方も、（うまくいっていれば）インストラクショナルデザインなのだと伝える。</p>		

進行時刻 の目安	単元ごとのテーマ・項目	所要 時間	内容等	教材等	方式
14:00	グループワーク	20分	○授業計画の方法について意見交換 グループ内でディスカッション。どのようにしてシラバス、コマシラバスを設計していますか？ グループの意見をまとめてもらう		
14:20	休憩	10分	～休憩～		
14:30	第2章目標設定	30分	○第2章の目標を提示 ○言葉の定義（目的、目標） ・目的はより高い（遠い）到達点で、目標はそこに達するために設定するもの到達点。目的は、大目標とか、「高次の」目標と言う場合もある。 ・このテキストでは、科目や1回の到達点を「目標」と呼ぶ ○学習目標の明確化 ・例示 ・目標を明確にする3つのポイント	目標設定練習シートを用意 (悪い例、よい例を載せる。何が違うか考えてもらう)	
	ミニワーク		・例示（		
15:00	ミニワーク	20分	○演習「学習目標を明確にする」 ・個人で5分、グループディスカッション10分（情報共有、自分と異なる視点の気付き） ・終了後、各グループからどんな目標があったか発表してもらう。 ○第2章のまとめ		
15:20	休憩	10分	～休憩～		
15:30	第3章学習目標の分類	20分	○第3章の目標を提示 ○学習目標は4つに分類することができる。 ・言語情報、知的技能、運動領域、随意領域 ○評価について、目標の分類とテストの関係 ・学習目標に達しているかどうかで評価する ・目標分類に適したテストを使う ・絶対評価、相対評価の紹介 かつて（2000年の前ぐらい）は、小中学校の成績は相対評価だったが、今では絶対評価。		

進行時刻 の目安	単元ごとのテーマ・項目	所要 時間	内容等	教材等	方式
15:50	演習 演習	30分	<p>学習の評価は絶対評価であるべき。(目標を達成したら合格) 絶対評価の例：運転免許試験 相対評価の例：大学入試(定員があるので、上から何%合格等決めなくてはならない)</p> <p>・テストの種類(前提テスト、事前テスト、事後テスト) 専門学校だと、前提テストで知識が足りなかったり、事前テストで満点だったりする人を断ることはできないだろう。ただし、教員が認識し、フォローの準備や体制を整えることができる。</p> <p>○演習「テストの作成」個人・グループ</p>	別紙ワークシートも用意(テキストと同じシート) Or ポストイット用別シートも用意	
16:20	グループワーク	20分	<p>自分が担当している科目(予定)の半期、または1年の学習目標と、入口(前提知識・能力)を記入する。今やっていることをそのまま書くのではなく、見直し・改善の視点で考える。</p> <p>「理解する」「身につける」という言葉は極力使用しないこと。</p> <p>・ポストイットを使用する方法 第目標を記述したら、それに至るまでに、何ができればいいのかをポストイットに書きだしてみる。(後の構成図でも使用できる)</p>		
16:40	代表者発表	20分	<p>グループ内発表</p> <p>・自分の専門分野でなくても、「理解する」「身につける」を使用していないか、などはフィードバックできる。また、学生がこの目標を見て理解できるか?という観点でフィードバックする。講師はグループを回り、ところどころ意見を言ったり質問に答えたりする。</p>		
17:30	休憩	10分	<p>グループ代表者前で発表(※スライドに映して。人数分コピーでも可。) ※講師が見回って、完成度が高い方のものをセレクトして発表してもらってもよい。2, 3名。</p>		
17:40	第4章課題分析	20分	<p>講師のフィードバック要。受講者からももらう。3つのポイント、言葉の使い方に注意。</p> <p>○第3章のまとめ</p> <p>～休憩～</p> <p>○第4章の目標を提示</p>		

進行時刻 の目安	単元ごとのテーマ・項目	所要 時間	内容等	教材等	方式
18:00	演習	25分	○課題分析手法の紹介 ・学習課題の分類に適した分析手法があることを紹介。 クラスタ分析、手順分析、階層分析 ・課題分析図の例紹介		
18:25		5分	○前の演習で設定した目標を分析する。 ・おそらく、階層分析になると思われるが、クラスタ、手順を使用してもよい。明日続きの時間を用意しているので完成させるので、本日完成しなくても問題ないということ伝える。  本日行ったことをふりかえり、講師の言葉でまとめる。質疑応答。		
(2日目) 9:00	振り返り (グループワーク)	5分	○1日目の振り返り&アイスブレイク		
		15分	・講師より行ったことを簡単にまとめて説明 ・グループディスカッション		
		15分	昨日の内容を振り返っての感想、意見、疑問を話あう。あとで、どんな話がでたか、代表者発表ということ伝える。 ・代表者発表		
9:35	第4章続き	20分	○手順分析の応用編 ・セオリー通り考えると、階層分析である課題も、手順分析の応用で書くとわかりやすい。 ・例を見る		
9:55	演習	25分	○昨日作成 (途中でもOK) した、課題分析図の見直し ・もし、手順分析応用が使いやすければ、そちらで書き直してみる ・昨日のでOKの人も、時間があれば、手順分析応用で書き直してみる	別紙ワークシートあり	
	休憩	10分	～休憩～		

進行時刻 の目安	単元ごとのテーマ・項目	所要 時間	内容等	教材等	方式
10:20	グループワーク	20分	・グループ内発表		
10:30		20分	・グループ代表者前で発表（※スライドに映して。人数分コピーでも可。）		
10:50			※講師が見回って、完成度が高い方のものをセレクトして発表してもらってもよい。2, 3名。 講師、受講者によるフィードバックを行う。		
			○第4章まとめ		
	第5章授業計画の作成	10分	○第5章の目標提示		
11:10			○課題分析図、シラバス、コマシラバス（指導案）の関係を説明		
	演習	25分			
11:20			○演習 第4章で作成した課題分析図からシラバスを作成する。1回の授業毎に目標を書くこと。（個人）		
		60分			
11:45			～昼食～		
	グループワーク	20分			
12:45			・グループ内発表 （・グループ代表者発表 時間があれば。※スライドに映して。人数分コピーでも可。）		
	第5章続き	20分			
13:10			○ガニエの9教授事象の考え方で、指導案（指導方略）を考えるとよい		
			○例を紹介		
	演習	30分	○ARCS理論の紹介（直接指導方略には使用しないが、学習内容を考えるいろいろなシーンで活用できるので紹介する		
13:30			○作成したシラバスの1回分を取り出し、指導方略表を作成する		
			・個人で		
	休憩	10分			
14:00			～休憩～		
	グループワーク	30分			
14:10			・グループ内発表		
	代表者発表	30分			

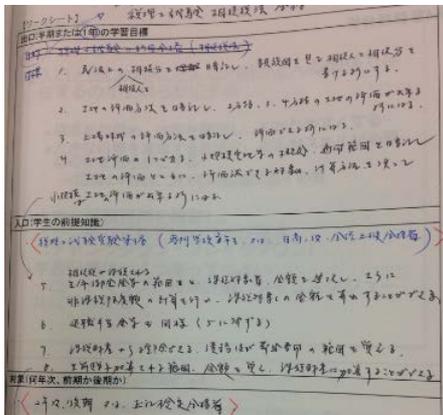
進行時刻 の目安	単元ごとのテーマ・項目	所要 時間	内容等	教材等	方式
14:40	休憩	10分	・代表者発表（2～3人）。講師はコメントする。 ※スライドに映して。人数分コピーでも可。		
15:10	第6章教育の改善	10分	～休憩～		
15:20	まとめ	30分	○授業計画の見直し（模擬授業にて評価もあり）、そして実施したあと、学生の達成度から授業を評価する。前者を形成的評価、後者を総括的評価という。		講義
15:30	グループワーク	30分	○2日間振り返りを行う グループでのディスカッション		
		15分	・IDを使用して見てどうだったか。これからIDを使っていくか。ID導入のメリット、デメリット等話し合ってもらおう。 ・模造紙にまとめる（1～2枚） ポスターツアーにてクラス全体で共有 ・模造紙を壁にはる。 ・グループメンバーを分ける（4グループで各4人なら、①～④をメンバーに割り振る） ・①の4人が集合して、1グループの模造紙の前に集合、同様に②の4人が集合して……）		
	振り返り	15分	・3分で、自分のグループの模造紙の前にいる人が、他のグループの人に説明をする。 ・時間がきたら、そのメンバーのまま、他の模造紙に移動。繰り返す ○講師によるふりかえり ・IDの良さ、ぜひ導入してほしい。最初は時間がかかるかもしれないけど、慣れてくれば短縮できる。ぜひ導入してほしい。学校でまだまだその流れがないのであれば、ぜひエバンジェリスト（伝道師）になってほしい。 ・今日のワークシートは財産。活用してほしい。 ○アンケート 解散		

## 第2章 実証講座実施記録

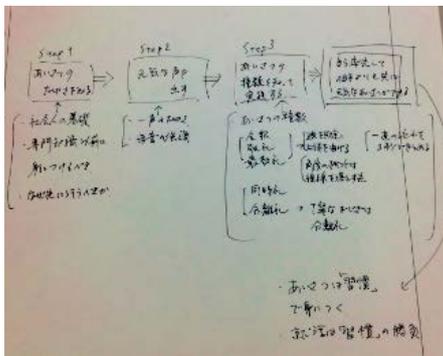
インストラクショナルデザイン研修 平成26年12月18日、19日実施 タイムスケジュール

1日目	概要	説明
13:00	オリエンテーション	・研修の目的等 ・講師自己紹介
13:10	1 システム的教育設計の概要	・職業実践専門課程とIDとの関係 ・IDとは ・グループワーク「現在の授業設計の手順について」
14:30	2 目標設定	・目的と目標 ・目標明確化の3つのポイント ・演習「明確な目標に修正する」
15:30  16:10	3.学習目標の分類	・4つの学習分野 ・評価の種類 ・テストについて ・演習「担当科目の半期・通期の目標設定」 個人30分、グループ内発表20分、代表者発表20分
17:30  ~18:30	4.課題分析	・課題分析の必要性 ・3つの分析手法 ・演習「担当科目の課題を分析する」 階層分析で行う(30分)
2日目	概要	説明
9:00	前日の振り返り	・グループ内で昨日の感想を話し合う、・発表
9:40  11:45	4.課題分析(続き)	・手順分析応用の紹介 ・演習「手順分析応用で課題分析図を作成し直す」 個人30分 グループ内発表30分 代表者発表20分
11:45-12:45	昼休み	
12:45	5 授業計画の作成	・シラバスの作成、・コマシラバスの作成の手順 ・演習「課題分析図からシラバスを作成する」 個人25分、グループ20分、代表者発表30分
14:00  16:15		・ガニエの9教授事象 ・指導方略表 ・ARCSモデルの紹介 ・演習「授業計画作成」 個人30分 グループ30分 代表者発表30分
16:15	6.教育の改善	・形成的評価と総括的評価 ・ADDIEモデル
16:30	まとめ、アンケート	講師によるまとめ

実施風景



質問	回答	時間	2次
1. 課題の達成を心配する	実際にどのような場面に立ち向かうか、明確に書かなくてはいけません。	10	7
2. 結果の目標を知らせる	シナリオを見せる。		
3. 目標達成の理由を説明する	相手の心に響かせること、(高ぶる) 前回の授業復習(10分)	10	8
4. 新しい課題を提示する	今日の行う場面のポイントと前回の授業復習(10分)を併せて行う(判断的)	10	
5. 質問の方向を定める(資料を参照する手段を用いる)	実際に書いてみる(10分説明)	15	30
6. 質問の準備をさせる	各自準備(15分) 相互に質問をさせる。		
7. 質問の成果を評価する	15分 書いてもらい、教えた内容を評価する。		



成果物の例

## 第3章 事前アンケート集計結果

### 内容

#### アンケート依頼文

この度、「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発を行うにあたりまして専門学校にて教鞭を執っている方々を対象に、ご自分の担当する授業に関するアンケートを実施することになりました。

このアンケートはインストラクショナルデザイン（以下 ID）という考え方に基づいた授業がどれくらい取り入れられているかの傾向を計るためのアンケートであり、授業を評価するものではありません。すでに ID をご自分の授業に活用している方は再確認にお使いいただき、ID をご存じない方にはご自分の授業設計のヒントになると考えております。

つきましては、ご多忙中恐れ入りますが、以下の URL からアンケートにお答えいただき、率直なご意見をお聞かせください。なお、アンケートの回答は統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として、公表されることはありません。何卒、ご協力よろしくお願い申し上げます。

#### 授業と担当講師のプロファイル

- I. 学校名 \_\_\_\_\_
- II. 学校所在地（都道府県） \_\_\_\_\_
- III. 企業勤務経験  
 あり  なし
- IV. 教員経験 \_\_\_\_\_年
- V. 分野
- |                             |                                  |
|-----------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 工業 | <input type="checkbox"/> 教育・社会福祉 |
| <input type="checkbox"/> 農業 | <input type="checkbox"/> 商業実務    |
| <input type="checkbox"/> 医療 | <input type="checkbox"/> 服飾・家政   |
| <input type="checkbox"/> 衛生 | <input type="checkbox"/> 文化・教養   |
- VI. 科目名 \_\_\_\_\_
- VII. 講義形態  
 講義  
 実習  
 演習
- VIII. 授業種別  
 必修  選択
- IX. 課程  
 職業実践専門課程  
 高等課程  
 その他

## アンケート内容

1	ID(インストラクショナルデザイン)を授業に取り入れていますか？	Yes No
◆学習目標の設定と評価方法の妥当性		
2	授業の成果を「学習時間の長さ」ではなく「学習成果の到達度」で判定していますか？	Yes No -
3	学生に対し1コマの授業開始時に学習目標を分かりやすく明確な言葉で提示していますか？	Yes No -
4	1コマ、もしくは数コマ毎にその範囲の学習項目に関するテストを行っていますか？	Yes No -
5	4の質問にYesと答えた方、そのテストの合格者はその範囲の目標をマスターした人だと判断できますか？	Yes No -
6	4の質問にYesと答えた方、そのテストには目標とした学習項目全てを確認できていますか？	Yes No -
◆学生の前提知識と習熟度の確認方法		
7	学生がその授業の目標を達成するのに必要な前提知識を持っているかどうかを自己判断できる材料がありますか？	Yes No -
8	その授業の目標に対する習熟度を学生が自己判断できる仕組みがありますか(事前テスト等)？	Yes No -
9	学生が授業の目標に対する習得状況を確認でき、自分のペースや自分の選択で学習を進められる工夫がありますか？	Yes No -
◆分かりやすい授業構成の提示		
10	スケジュール表・カリキュラムの全体図(ロードマップ)などが用意され、学生に授業の全体像・学習項目間の関係が示されていますか？	Yes No -
11	その授業の目標の達成に不要な、直接関係のない学習項目が内容に含まれていませんか？	Yes No -
12	学生に対し、その授業の学習の進め方が分かりやすく示されていますか？	Yes No -
13	1回の授業の中で講義スタイルに変化があり、学生が飽きないような工夫がありますか？	Yes No -
◆学習目標の達成を支援する授業内容・教授方法の工夫		
14	授業の中で示されている情報は何についての情報提示なのかが明らかですか(タイトルや見出し等)？	Yes No -
15	すでに知っていることと関係づけながら新しい情報を提示・解説していますか？	Yes No -
16	文字情報ができる限り図表を用いて構造化され、学生の理解を促進していますか？	Yes No -
17	文字情報以外のイラスト、写真、動画、ナレーション等で学習効果を高めていますか？	Yes No -
18	学生が間違いやミスを気にしないで試せる状況(リスクフリー)で練習をする機会がありますか？(学生が自己チェックできる演習問題を用意する等)	Yes No -
19	学生がテストと同じレベル(難易度/回答方法)で練習をする機会がありますか？	Yes No -
20	学生が苦手なところや覚えられない項目を集中して練習できる工夫がありますか？	Yes No -
◆適切な教育媒体の選択とサポート体制の確立		
21	授業の中で学生が目標を達成するために適切な教育媒体が効果的に使われていますか？	Yes No -
22	学生が自主的に持続して学習を進めていけるようなサポートが準備されていますか？	Yes No -

# 集計結果

別紙「実証講座事前アンケート結果」参照

## 集計結果を用いたクロス集計

### 1.ID(インストラクショナルデザイン)を授業に取り入れていますか？

教務歴

データの個数 / 教員経験	教務年数						総計
ID適用有無	10年～20年	1年～3年	1年未満	21年以上	4年～6年	7年～9年	
Yes	25.54%	31.46%	22.92%	18.52%	14.71%	22.97%	23.23%
No	74.46%	68.54%	77.08%	81.48%	85.29%	77.03%	76.77%
<b>総計</b>	<b>100.00%</b>						

企業勤務有無

データの個数 / 企業勤務経験	企業経験		総計
ID適用有無	あり	なし	
Yes	25.36%	16.28%	23.23%
No	74.64%	83.72%	76.77%
<b>総計</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>

分野

データの個数 / 分野	分野							総計
ID適用有無	医療	衛生	育・社会福	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養	
Yes	14.13%	32.00%	23.71%	26.42%	28.57%	25.00%	18.81%	23.23%
No	85.87%	68.00%	76.29%	73.58%	71.43%	75.00%	81.19%	76.77%
<b>総計</b>	<b>100.00%</b>							

課程

データの個数 / 課程	課程			総計
ID適用有無	高等課程	実践専門	専門課程	
Yes	14.29%	24.21%	21.83%	23.23%
No	85.71%	75.79%	78.17%	76.77%
<b>総計</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>

### 2.授業の成果を「学習時間の長さ」ではなく「学習成果の到達度」で判定していますか？

学習成果の到達度での判定(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務有無		総計
学習成果到達での評価	あり	なし	
NG 不十分	12.09%	13.18%	12.34%
OK 大丈夫	85.31%	82.17%	84.57%
該当しない	2.61%	4.65%	3.09%
<b>総計</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>

学習成果の到達度での判定(分野)

データの個数 / 分野	分野							総計
学習成果到達での評価	医療	衛生	育・社会福	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養	
NG 不十分	16.30%	12.00%	8.25%	15.09%	16.67%	0.00%	4.95%	12.34%
OK 大丈夫	80.43%	88.00%	87.63%	83.96%	81.75%	100.00%	88.12%	84.57%
該当しない	3.26%	0.00%	4.12%	0.94%	1.59%	0.00%	6.93%	3.09%
<b>総計</b>	<b>100.00%</b>							

### 3.学生に対しコマの授業開始時に学習目標を分かりやすく明確な言葉で提示していますか？

学習目標の明示(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務		総計
学習目標の明示	あり	なし	
NG 不十分	25.12%	25.58%	25.23%
OK 大丈夫	71.80%	69.77%	71.32%
該当しない	3.08%	4.65%	3.45%
<b>総計</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>	<b>100.00%</b>

学習目標の明示(分野)

データの個数 / 分野	分野							総計
学習目標の明示	医療	衛生	育・社会福	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養	
NG 不十分	28.26%	8.00%	19.59%	31.13%	26.98%	50.00%	22.77%	25.23%
OK 大丈夫	67.39%	92.00%	78.35%	61.32%	71.43%	50.00%	74.26%	71.32%
該当しない	4.35%	0.00%	2.06%	7.55%	1.59%	0.00%	2.97%	3.45%
<b>総計</b>	<b>100.00%</b>							

4.1 コマ、もしくは数コマ毎にその範囲の学習項目に関するテストを行っていますか？

途中確認テストの実施(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務		総計
途中確認テスト実施	あり	なし	
NG 不十分	28.20%	28.68%	28.31%
OK 大丈夫	62.56%	52.71%	60.25%
該当しない	9.24%	18.60%	11.43%
総計	100.00%	100.00%	100.00%

途中確認テストの実施(分野)

データの個数 / 分野	分野							総計
途中確認テスト実施	医療	衛生	育・社会福	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養	
NG 不十分	35.87%	28.00%	23.71%	26.42%	20.63%	0.00%	38.61%	28.31%
OK 大丈夫	55.43%	56.00%	60.82%	62.26%	74.60%	100.00%	43.56%	60.25%
該当しない	8.70%	16.00%	15.46%	11.32%	4.76%	0.00%	17.82%	11.43%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

5.4の質問にYesと答えた方、そのテストの合格者はその範囲の目標をマスターした人だと判断できますか？

途中確認テストでの修熟判断(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務		総計
途中確認テスト修熟判断	あり	なし	
NG 不十分	22.99%	24.81%	23.41%
OK 大丈夫	44.08%	31.01%	41.02%
該当しない	32.94%	44.19%	35.57%
総計	100.00%	100.00%	100.00%

途中確認テストでの修熟判断(分野)

データの個数 / 分野	分野							総計
途中確認テスト修熟判断	医療	衛生	育・社会福	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養	
NG 不十分	27.17%	16.00%	21.65%	25.47%	26.98%	50.00%	15.84%	23.41%
OK 大丈夫	30.43%	52.00%	44.33%	40.57%	53.17%	50.00%	29.70%	41.02%
該当しない	42.39%	32.00%	34.02%	33.96%	19.84%	0.00%	54.46%	35.57%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

6.4の質問にYesと答えた方、そのテストには目標とした学習項目全てを確認できていますか？

途中確認テスト目標範囲網羅性(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務		総計
途中確認テスト目標範囲網羅性	あり	なし	
NG 不十分	26.30%	23.26%	25.59%
OK 大丈夫	37.68%	31.78%	36.30%
該当しない	36.02%	44.96%	38.11%
総計	100.00%	100.00%	100.00%

途中確認テスト目標範囲網羅性(分野)

データの個数 / 分野	分野							総計
途中確認テスト目標範囲網羅性	医療	衛生	育・社会福	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養	
NG 不十分	23.91%	16.00%	24.74%	28.30%	35.71%	100.00%	11.88%	25.59%
OK 大丈夫	32.61%	44.00%	37.11%	34.91%	42.06%	0.00%	32.67%	36.30%
該当しない	43.48%	40.00%	38.14%	36.79%	22.22%	0.00%	55.45%	38.11%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

7. 学生がその授業の目標を達成するのに必要な前提知識を持っているかどうかを自己判断できる材料がありますか？

前提知識の自己判断(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務		総計
前提知識の自己判断	あり	なし	
NG 不十分	50.71%	52.71%	51.18%
OK 大丈夫	41.00%	37.98%	40.29%
該当しない	8.29%	9.30%	8.53%
総計	100.00%	100.00%	100.00%

前提知識の自己判断(分野)

データの個数 / 分野	分野							総計
前提知識の自己判断	医療	衛生	育・社会福	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養	
NG 不十分	52.17%	48.00%	46.39%	54.72%	57.14%	50.00%	44.55%	51.18%
OK 大丈夫	42.39%	36.00%	42.27%	34.91%	36.51%	50.00%	47.52%	40.29%
該当しない	5.43%	16.00%	11.34%	10.38%	6.35%	0.00%	7.92%	8.53%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

8.その授業の目標に対する習熟度を学生が自己判断できる仕組みがありますか(事前テスト等)?

前提確認事前テストなど(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務		総計
前提確認事前テストなど	あり	なし	
NG 不十分	51.66%	48.84%	51.00%
OK 大丈夫	40.76%	42.64%	41.20%
該当しない	7.58%	8.53%	7.80%
総計	100.00%	100.00%	100.00%

前提確認事前テストなど(分野)

データの個数 / 分野	分野							総計
前提確認事前テストなど	医療	衛生	教育・社会福祉	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養	
NG 不十分	53.26%	40.00%	46.39%	61.32%	49.21%	50.00%	47.52%	51.00%
OK 大丈夫	40.22%	44.00%	43.30%	31.13%	46.03%	50.00%	43.56%	41.20%
該当しない	6.52%	16.00%	10.31%	7.55%	4.76%	0.00%	8.91%	7.80%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

9.学生が授業の目標に対する習得状況を確認でき、自分のペースや自分の選択で学習を進められる工夫がありますか?

自己学習の工夫(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務		総計
自己学習の工夫	あり	なし	
NG 不十分	48.34%	50.39%	48.82%
OK 大丈夫	43.84%	42.64%	43.56%
該当しない	7.82%	6.98%	7.62%
総計	100.00%	100.00%	100.00%

自己学習の工夫(分野)

データの個数 / 分野	分野							総計
自己学習の工夫	医療	衛生	教育・社会福祉	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養	
NG 不十分	55.43%	36.00%	44.33%	53.77%	50.79%	50.00%	42.57%	48.82%
OK 大丈夫	39.13%	60.00%	38.14%	39.62%	43.65%	50.00%	52.48%	43.56%
該当しない	5.43%	4.00%	17.53%	6.60%	5.56%	0.00%	4.95%	7.62%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

10.スケジュール表-カリキュラムの全体図などが用意され、学生に授業の全体像-学習項目間の関係が示されていますか?

授業全体像や学習項目間の関連の提示(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務		総計
授業全体像や学習項目間の関	あり	なし	
NG 不十分	36.02%	40.31%	37.02%
OK 大丈夫	61.61%	57.36%	60.62%
該当しない	2.37%	2.33%	2.36%
総計	100.00%	100.00%	100.00%

授業全体像や学習項目間の関連の提示(分野)

データの個数 / 分野	分野							総計
授業全体像や学習項目間の関	医療	衛生	教育・社会福祉	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養	
NG 不十分	29.35%	28.00%	28.87%	42.45%	45.24%	25.00%	38.61%	37.02%
OK 大丈夫	68.48%	68.00%	67.01%	56.60%	53.17%	75.00%	58.42%	60.62%
該当しない	2.17%	4.00%	4.12%	0.94%	1.59%	0.00%	2.97%	2.36%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

11.その授業の目標の達成に不要な、直接関係のない学習項目が内容に含まれていませんか?

無関係項目なし(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務		総計
無関係項目なし	あり	なし	
NG 不十分	18.48%	13.95%	17.42%
OK 大丈夫	75.59%	81.40%	76.95%
該当しない	5.92%	4.65%	5.63%
総計	100.00%	100.00%	100.00%

無関係項目なし(分野)

データの個数 / 分野	分野							総計
無関係項目なし	医療	衛生	教育・社会福祉	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養	
NG 不十分	11.96%	16.00%	13.40%	16.98%	26.19%	100.00%	12.87%	17.42%
OK 大丈夫	81.52%	72.00%	80.41%	78.30%	70.63%	0.00%	80.20%	76.95%
該当しない	6.52%	12.00%	6.19%	4.72%	3.17%	0.00%	6.93%	5.63%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

12.学生に対し、その授業の学習の進め方が分かりやすく示されていますか？

授業の進め方の提示(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務		総計
授業の進め方の提示	あり	なし	
NG 不十分	31.52%	30.23%	31.22%
OK 大丈夫	65.40%	65.12%	65.34%
該当しない	3.08%	4.65%	3.45%
総計	100.00%	100.00%	100.00%

授業の進め方の提示(分野)

データの個数 / 分野	分野							
授業の進め方の提示	医療	衛生	教育・社会福祉	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養	総計
NG 不十分	32.61%	32.00%	23.71%	38.68%	38.89%	0.00%	20.79%	31.22%
OK 大丈夫	64.13%	68.00%	73.20%	54.72%	60.32%	100.00%	74.26%	65.34%
該当しない	3.26%	0.00%	3.09%	6.60%	0.79%	0.00%	4.95%	3.45%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

13.1回の授業の中で講義スタイルに変化があり、学生が飽きないような工夫がありますか？

授業中の講義変化など、飽きさせない工夫(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務		総計
授業中の講義変化など、飽き	あり	なし	
NG 不十分	33.18%	43.41%	35.57%
OK 大丈夫	62.80%	51.16%	60.07%
該当しない	4.03%	5.43%	4.36%
総計	100.00%	100.00%	100.00%

授業中の講義変化など、飽きさせない工夫(分野)

データの個数 / 分野	分野							
授業中の講義変化など、飽き	医療	衛生	教育・社会福祉	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養	総計
NG 不十分	40.22%	24.00%	29.90%	43.40%	34.92%	0.00%	33.66%	35.57%
OK 大丈夫	55.43%	72.00%	64.95%	54.72%	63.49%	100.00%	56.44%	60.07%
該当しない	4.35%	4.00%	5.15%	1.89%	1.59%	0.00%	9.90%	4.36%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

14.授業の中で示されている情報は何についての情報提示なのかが明らかですか(タイトルや見出し等)？

授業内提示情報の明確化(indexなど)(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務		総計
授業内提示情報の明確化(index)	あり	なし	
NG 不十分	11.85%	14.73%	12.52%
OK 大丈夫	85.31%	79.84%	84.03%
該当しない	2.84%	5.43%	3.45%
総計	100.00%	100.00%	100.00%

授業内提示情報の明確化(indexなど)(分野)

データの個数 / 分野	分野							
授業内提示情報の明確化(index)	医療	衛生	教育・社会福祉	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養	総計
NG 不十分	9.78%	16.00%	12.37%	15.09%	11.11%	50.00%	11.88%	12.52%
OK 大丈夫	88.04%	84.00%	81.44%	83.02%	88.10%	50.00%	80.20%	84.03%
該当しない	2.17%	0.00%	6.19%	1.89%	0.79%	0.00%	7.92%	3.45%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

15.すでに知っていることと関係づけながら新しい情報を提示・解説していますか？

既知情報との関連付け(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務		総計
既知情報との関連付け	あり	なし	
NG 不十分	8.77%	13.95%	9.98%
OK 大丈夫	90.05%	82.95%	88.38%
該当しない	1.18%	3.10%	1.63%
総計	100.00%	100.00%	100.00%

既知情報との関連付け(分野)

データの個数 / 分野	分野							
既知情報との関連付け	医療	衛生	教育・社会福祉	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養	総計
NG 不十分	13.04%	0.00%	11.34%	9.43%	10.32%	25.00%	7.92%	9.98%
OK 大丈夫	82.61%	100.00%	85.57%	90.57%	88.89%	75.00%	91.09%	88.38%
該当しない	4.35%	0.00%	3.09%	0.00%	0.79%	0.00%	0.99%	1.63%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

16.文字情報ができる限り図表を用いて構造化され、学生の理解を促進していますか？

文字を図表により構造化(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務		総計
文字を図表により構造化	あり	なし	
NG 不十分	29.38%	31.01%	29.76%
OK 大丈夫	61.61%	56.59%	60.44%
該当しない	9.00%	12.40%	9.80%
総計	100.00%	100.00%	100.00%

文字を図表により構造化(分野)

データの個数 / 分野	分野								総計
文字を図表により構造化	医療	衛生	教育・社会福祉	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養		
NG 不十分	21.74%	40.00%	37.11%	25.47%	29.37%	75.00%	30.69%		29.76%
OK 大丈夫	65.22%	48.00%	52.58%	68.87%	65.87%	25.00%	52.48%		60.44%
該当しない	13.04%	12.00%	10.31%	5.66%	4.76%	0.00%	16.83%		9.80%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%		100.00%

17.文字情報以外のイラスト、写真、動画、ナレーション等で学習効果を高めていますか？

イラスト、写真、動画、ナレーション等の導入(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務		総計
イラスト、写真、動画、ナレ	あり	なし	
NG 不十分	34.12%	34.11%	34.12%
OK 大丈夫	59.95%	55.04%	58.80%
該当しない	5.92%	10.85%	7.08%
総計	100.00%	100.00%	100.00%

イラスト、写真、動画、ナレーション等の導入(分野)

データの個数 / 分野	分野								総計
イラスト、写真、動画、ナレ	医療	衛生	教育・社会福祉	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養		
NG 不十分	30.43%	40.00%	39.18%	30.19%	42.86%	50.00%	23.76%		34.12%
OK 大丈夫	64.13%	48.00%	53.61%	65.09%	48.41%	50.00%	68.32%		58.80%
該当しない	5.43%	12.00%	7.22%	4.72%	8.73%	0.00%	7.92%		7.08%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%		100.00%

18.学生が間違いやミスを感じしないで試せる状況(リスクフリー)で練習をする機会がありますか？

自己チェック演習等の有無(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務		総計
自己チェック演習等の有無	あり	なし	
NG 不十分	29.38%	31.01%	29.76%
OK 大丈夫	61.61%	56.59%	60.44%
該当しない	9.00%	12.40%	9.80%
総計	100.00%	100.00%	100.00%

自己チェック演習等の有無(分野)

データの個数 / 分野	分野								総計
自己チェック演習等の有無	医療	衛生	教育・社会福祉	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養		
NG 不十分	21.74%	40.00%	37.11%	25.47%	29.37%	75.00%	30.69%		29.76%
OK 大丈夫	65.22%	48.00%	52.58%	68.87%	65.87%	25.00%	52.48%		60.44%
該当しない	13.04%	12.00%	10.31%	5.66%	4.76%	0.00%	16.83%		9.80%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%		100.00%

19.学生がテストと同じレベル(難易度/回答方法)で練習をする機会がありますか？

模擬テスト等の有無(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務		総計
模擬テスト等の有無	あり	なし	
NG 不十分	19.91%	27.13%	21.60%
OK 大丈夫	71.33%	61.24%	68.97%
該当しない	8.77%	11.63%	9.44%
総計	100.00%	100.00%	100.00%

模擬テスト等の有無(分野)

データの個数 / 分野	分野								総計
模擬テスト等の有無	医療	衛生	教育・社会福祉	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養		
NG 不十分	27.17%	20.00%	29.90%	25.47%	12.70%	0.00%	16.83%		21.60%
OK 大丈夫	67.39%	72.00%	52.58%	66.04%	84.13%	100.00%	68.32%		68.97%
該当しない	5.43%	8.00%	17.53%	8.49%	3.17%	0.00%	14.85%		9.44%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%		100.00%

20. 学生が苦手なところや覚えられない項目を集中して練習できる工夫がありますか？

集中練習環境などの有無(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務		総計
集中練習環境などの有無	あり	なし	
NG 不十分	40.76%	48.06%	42.47%
OK 大丈夫	52.61%	43.41%	50.45%
該当しない	6.64%	8.53%	7.08%
総計	100.00%	100.00%	100.00%

集中練習環境などの有無(分野)

データの個数 / 分野	分野							総計
集中練習環境などの有無	医療	衛生	教育・社会福祉	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養	
NG 不十分	50.00%	24.00%	38.14%	50.94%	38.89%	50.00%	39.60%	42.47%
OK 大丈夫	45.65%	64.00%	46.39%	43.40%	58.73%	50.00%	52.48%	50.45%
該当しない	4.35%	12.00%	15.46%	5.66%	2.38%	0.00%	7.92%	7.08%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

21. 授業の中で学生が目標を達成するために適切な教育媒体が効果的に使われていますか？

目標達成のための適切な教育媒体の使用(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務		総計
目標達成のための適切な教育	あり	なし	
NG 不十分	39.10%	42.64%	39.93%
OK 大丈夫	55.45%	50.39%	54.26%
該当しない	5.45%	6.98%	5.81%
総計	100.00%	100.00%	100.00%

目標達成のための適切な教育媒体の使用(分野)

データの個数 / 分野	分野							総計
目標達成のための適切な教育	医療	衛生	教育・社会福祉	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養	
NG 不十分	35.87%	44.00%	44.33%	43.40%	35.71%	50.00%	39.60%	39.93%
OK 大丈夫	58.70%	52.00%	51.55%	53.77%	59.52%	50.00%	47.52%	54.26%
該当しない	5.43%	4.00%	4.12%	2.83%	4.76%	0.00%	12.87%	5.81%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

22. 学生が自主的に持続して学習を進めていけるようなサポートが準備されていますか？

自主学習の維持サポート(企業勤務有無)

データの個数 / 企業勤務経験	企業勤務		総計
自主学習の維持サポート	あり	なし	
NG 不十分	41.23%	47.29%	42.65%
OK 大丈夫	55.21%	46.51%	53.18%
該当しない	3.55%	6.20%	4.17%
総計	100.00%	100.00%	100.00%

自主学習の維持サポート(分野)

データの個数 / 分野	分野							総計
自主学習の維持サポート	医療	衛生	教育・社会福祉	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養	
NG 不十分	51.09%	28.00%	44.33%	46.23%	36.51%	50.00%	40.59%	42.65%
OK 大丈夫	44.57%	64.00%	51.55%	50.94%	60.32%	50.00%	53.47%	53.18%
該当しない	4.35%	8.00%	4.12%	2.83%	3.17%	0.00%	5.94%	4.17%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

分野別 YES、OK の回答割合

	医療	衛生	教育・社会 福祉	工業	商業実務	服飾・家政	文化・教養
1問目	14%	32%	24%	26%	29%	25%	19%
2問目	80.4%	88.0%	87.6%	84.0%	81.7%	100.0%	88.1%
3問目	67.4%	92.0%	78.4%	61.3%	71.4%	50.0%	74.3%
4問目	55.4%	56.0%	60.8%	62.3%	74.6%	100.0%	43.6%
5問目	30.4%	52.0%	44.3%	40.6%	53.2%	50.0%	29.7%
6問目	32.6%	44.0%	37.1%	34.9%	42.1%	0.0%	32.7%
7問目	42.4%	36.0%	42.3%	34.9%	36.5%	50.0%	47.5%
8問目	40.2%	44.0%	43.3%	31.1%	46.0%	50.0%	43.6%
9問目	39.1%	60.0%	38.1%	39.6%	43.7%	50.0%	52.5%
10問目	68.5%	68.0%	67.0%	56.6%	53.2%	75.0%	58.4%
11問目	81.5%	72.0%	80.4%	78.3%	70.6%	0.0%	80.2%
12問目	64.1%	68.0%	73.2%	54.7%	60.3%	100.0%	74.3%
13問目	55.4%	72.0%	64.9%	54.7%	63.5%	100.0%	56.4%
14問目	88.0%	84.0%	81.4%	83.0%	88.1%	50.0%	80.2%
15問目	82.6%	100.0%	85.6%	90.6%	88.9%	75.0%	91.1%
16問目	65.2%	48.0%	52.6%	68.9%	65.9%	25.0%	52.5%
17問目	64.1%	48.0%	53.6%	65.1%	48.4%	50.0%	68.3%
18問目	65.2%	48.0%	52.6%	68.9%	65.9%	25.0%	52.5%
19問目	67.4%	72.0%	52.6%	66.0%	84.1%	100.0%	68.3%
20問目	45.7%	64.0%	46.4%	43.4%	58.7%	50.0%	52.5%
21問目	58.7%	52.0%	51.5%	53.8%	59.5%	50.0%	47.5%
22問目	44.6%	64.0%	51.5%	50.9%	60.3%	50.0%	53.5%
<b>平均</b>	<b>59.0%</b>	<b>63.4%</b>	<b>59.3%</b>	<b>58.3%</b>	<b>62.7%</b>	<b>57.1%</b>	<b>59.4%</b>

## クロス集計に対する考察

まず企業勤務経験の有無による講師のインストラクショナルデザインの授業への取り入れ具合だが、1の「ID(インストラクショナルデザイン)を授業に取り入れていますか?」という質問に対して、企業勤務経験のない講師の中で YES と答えた方が 16%、それに対し企業勤務経験のある講師は YES の割合が 25%と、企業勤務経験のある講師の方がインストラクショナルデザインに対し、前向きに取り組んでいる様子が伺える。

2以降の質問は、講座受講前のインストラクショナルデザインの内容を詳しく学んでいない方がどれくらいインストラクショナルデザインを取り入れているかを、具体的な項目で明らかにした。結果、8の「その授業の目標に対する習熟度を学生が自己判断できる仕組みがありますか(事前テスト等)?」という質問と 11の「その授業の目標の達成に不要な、直接関係のない学習項目が内容に含まれていませんか?」という質問以外で企業勤務経験のある講師の方が OK を選択している割合が多くなった。これは1の「ID(インストラクショナルデザイン)を授業に取り入れていますか?」という質問の結果を裏付けている。詳しく学んでいなくとも、企業勤務経験がある方がインストラクショナルデザインの考え方を自らの授業で実践している。企業での職歴・経験などがインストラクショナルデザインと結びついている、と考えることもできる。

分野別のインストラクショナルデザインの取り入れ具合だが、衛生分野・商業実務分野でのインストラクションの取り入れ具合が他の分野をリードしている。服飾・家政分野は平均 57.1%と 7 分野の中で割合が最も低いが、そもそものサンプル数が 4 名と精度に問題がある。1 以外の 21 問全ての質問に対する答えを平均してみてもインストラクショナルデザインが適応されている割合は 60%近い値になる。

## 第4章 事前 E ラーニングコンテンツ

### 内容

1. インストラクショナルデザイン
2. 受講手順
3. 目標
4. IDとは
5. IDとその利点
6. IDの事例
7. システム的な授業設計・開発の手順
8. IDとパフォーマンス分析
9. 目標とは？
10. 学習目標の明確化
11. 学習目標の例
12. 学習目標を明確化するポイント
13. 学習目標の例
  - ★ 演習 学習目標を明確にする
14. 学習目標の種類
15. インストラクショナルデザインの効果測定
16. 学習目標（課題）の種類とテスト
17. IDにおけるテストは…
18. テストについて
19. 課題の分析
20. 分析方法
21. カリキュラム/授業計画の作成方法 1,2
22. カリキュラム/授業計画の作成方法 3
23. カリキュラム/授業計画の作成方法 4
24. カリキュラム/授業計画の作成方法 5
25. 分析した結果から見直す
26. カリキュラム/授業計画の作成方法まとめ
27. ガニユの9教授事象
28. 教え方を考える
29. 授業計画

**テストについて**

- テストの種類
  - 前提テスト…資格があるかどうか、基礎知識を持っているか  
できなすぎた人を除外する  
アンケートの形をとることもある
  - 事前テスト…研修・教育を受ける必要があるかどうか  
既に持っている知識・スキルのチェック→効果的な教育
  - 事後テスト…合格かどうか  
学習目標に到達したか、習得できたかどうかをチェックする
- 事前と事後は基本的には同じもの。研修・教育の責任範囲を明らかにする

Diagram illustrating the relationship between tests and learning objectives:

- 前提テスト (Pre-test) → 基礎は大丈夫？ (Is the foundation OK?)
- 事前テスト (Pre-test) → どこまで受ける必要があるか？ どれくらい知っているか？ (How much do we need to learn? How much do we know?)
- 授業 (Lesson) →
- 事後テスト (Post-test) → 学習目標に達したか？ (Did we reach the learning objectives?)

Table of Contents (右側):

スライド番号	学習時間
00-01	00:01
00-02	00:02
00-03	00:03
00-04	00:04
00-05	00:05
00-06	00:06
00-07	00:07
00-08	00:08
00-09	00:09
00-10	00:10
00-11	00:11
00-12	00:12
00-13	00:13
00-14	00:14
00-15	00:15
00-16	00:16
00-17	00:17
00-18	00:18
00-19	00:19
00-20	00:20
00-21	00:21
00-22	00:22
00-23	00:23
00-24	00:24
00-25	00:25
00-26	00:26
00-27	00:27
00-28	00:28
00-29	00:29

## 進捗率

受講者数	平均進捗率	未着手数	修了者数	修了率
30人	68%	6人	17人	56%

	進捗率	開始日	最終受講日	修了日	受講状況	確認テスト 最高点	1回目点数	最新点数
受講者1	100%	2014/12/2	2014/12/5	2014/12/2	受講完了	100	90	100
受講者2	100%	2014/12/2	2014/12/17	2014/12/6	受講完了	80	80	80
受講者3	100%	2014/12/3	2014/12/16	2014/12/16	受講完了	90	90	90
受講者4	100%	2014/12/2	2014/12/3	2014/12/3	受講完了	100	70	100
受講者5	50%	2014/12/17	2014/12/17		受講完了			
受講者6	100%	2014/12/10	2014/12/12	2014/12/12	受講完了	100	80	100
受講者7	100%	2014/12/2	2014/12/11	2014/12/2	受講完了	100	90	100
受講者8	50%	2014/12/7	2014/12/17		受講完了			
受講者9	100%	2014/12/10	2014/12/10	2014/12/10	受講完了	90	90	90
受講者10	100%	2014/12/2	2014/12/17	2014/12/15	受講完了	80	80	80
受講者11	100%	2014/12/2	2014/12/14	2014/12/14	受講完了	100	100	100
受講者12	100%	2014/12/5	2014/12/5	2014/12/5	受講完了	90	90	90
受講者13	100%	2014/12/2	2014/12/17	2014/12/12	受講完了	90	60	90
受講者14	50%	2014/12/4	2014/12/4		受講完了			
受講者15	100%	2014/12/8	2014/12/12	2014/12/12	受講完了	90	90	90
受講者16	50%	2014/12/4	2014/12/6		受講完了			
受講者17	100%	2014/12/5	2014/12/10	2014/12/5	受講完了	80	80	80
受講者18	100%	2014/12/4	2014/12/5	2014/12/5	受講完了	90	90	90
受講者19	0%				未受講			
受講者20	0%				未受講			
受講者21	0%				未受講			
受講者22	50%	2014/12/15	2014/12/15		受講完了			
受講者23	100%	2014/12/5	2014/12/8	2014/12/8	受講完了	100	0	0
受講者24	0%				未受講			
受講者25	50%	2014/12/6	2014/12/6		受講完了			
受講者26	0%				未受講			
受講者27	0%				未受講			
受講者28	100%	2014/12/8	2014/12/17	2014/12/8	受講完了	90	90	90
受講者29	100%	2014/12/16	2014/12/16	2014/12/16	受講完了	80	80	80
受講者30	50%	2014/12/16	2014/12/16		受講完了			

## 第5章 実証講座テキスト

別紙テキスト参照

## 第6章 実証講座受講者アンケート

### 内容

1. 実証講座の満足度についてお聞かせください。

とても満足 満足 普通 やや不満 不満

理由

( )

2. 講座の目的・目標は理解できましたか？

理解できた どちらともいえない 理解できなかった

理由

( )

3. 職業実践専門課程の教員用として講座内容は、適切だったと考えますか？

そう思う どちらともいえない そう思わない

理由

( )

4. 使用教材についてお聞かせください。

①構成がよい そう思う どちらともいえない そう思わない

②みやすい そう思う どちらともいえない そう思わない

③役に立つ そう思う どちらともいえない そう思わない

理由

( )

5. 実習(演習)についてお聞かせください。

とても満足 満足 普通 やや不満 不満

具体的に

( )

6. 講師の教え方についてお聞かせください。

①総合的な満足度 とても満足 満足 普通 やや不満 不満

②説明の仕方がよい そう思う どちらともいえない そう思わない

③質問への対応よい そう思う どちらともいえない そう思わない

④時間管理がよい そう思う どちらともいえない そう思わない

理由

( )

7. 事前Eラーニングについてお聞かせください。

とても満足 満足 普通 やや不満 不満

具体的に

( )

8. 研修時間についてお聞かせください。

長すぎる やや長い 丁度良い やや短い 短い

9. 今回学習したインストラクショナルデザインの内容を自分の授業で実践しようと思いませんか。

思う どちらともいえない 思わない

10. 今回学習したインストラクショナルデザインの内容で、どの部分が一番印象に残りましたか？またその理由をお聞かせください。

①職業実践専門課程とIDとの関係

②明確な目標設定

③課題分析

④シラバス作成

⑤コマシラバス作成

⑥その他 ( )

( )

11. 今回の実証講座での改善点をお聞かせください。

( )

12. その他、ご意見・ご要望、感想等自由に記入してください。

( )

## 集計結果

1. 実証講座の満足度に関してお聞かせください。

とても満足	満足	普通
2	13	4

2. 講座の目的・目標は理解できましたか？

理解できた	ほぼ理解できた	どちらとも言えない
17	1	1

3

職業実践専門課程の教員用として講座内容は、適切だったと考えますか？

そう思う	どちらともいえない
13	6

4. 使用教材に関してお聞かせください。

①構成がよい  そう思う  どちらともいえない  そう思わない

そう思う	どちらともいえない
15	4

②みやすい  そう思う  どちらともいえない  そう思わない

そう思う	どちらともいえない	そう思わない
14	4	1

③役に立つ  そう思う  どちらともいえない  そう思わない

そう思う	どちらともいえない
16	3

5. 実習(演習)に関してお聞かせください。

とても満足	満足	普通	やや不満
3	7	8	1

6. 講師の教え方についてお聞かせください。

①総合的な満足度      ○とても満足   ○満足   ○普通   ○やや不満   ○不満

とても満足	満足	普通
4	12	3

②説明の仕方がよい      ○そう思う   ○どちらともいえない   ○そう思わない

そう思う	どちらともいえない
12	7

③質問への対応よい      ○そう思う   ○どちらともいえない   ○そう思わない

そう思う	どちらともいえない
14	5

④時間管理がよい      ○そう思う   ○どちらともいえない   ○そう思わない

そう思う	どちらともいえない
14	5

7. 事前Eラーニングについてお聞かせください。

とても満足	満足	普通	未回答
1	10	7	1

8. 研修時間についてお聞かせください。

やや長い	丁度良い	やや短い
6	10	3

9. 今回学習したインストラクショナルデザインの内容を自分の授業で実践しようと思いませんか。

思う	どちらともいえない
17	2

10. 今回学習したインストラクショナルデザインの内容で、どの部分が一番印象に残りましたか？またその理由をお聞かせください。

- ①職業実践専門課程とIDとの関係
- ②明確な目標設定
- ③課題分析
- ④シラバス作成
- ⑤コマンシラバス作成

①	②	③	④	⑤	②③④
3	5	4	5	1	1

## 第7章 講座の課題と今後の展望

### 今回の課題

インストラクショナル・デザイン（以下 ID とする）は現在多くの企業及び学校における教育設計にて活用が進んでいる。

本教材は、職業実践専門課程における教育の質向上を図る目的で、ID を活用した授業設計を行い、産学間での共通認識を持って具体的な学習目標を設定し、効果的、効率的、魅力的な授業ができる教員を養成するための教材である。具体的には、各教員が ID 理論を理解し、より目標を明確にした授業設計ができることを目的に実証講座を実施し効果検証を行った。実証講座における内容の理解度は、アンケート結果から鑑みるとシラバスまたはコマシラバスの作成方法など具体的な知識・スキルの習得は十分得られていることを示した。今後の課題は、下記のように3点あると認識している。

1. 企業が求める人材とその人材を育てるための学習内容の合致性を高める。
2. 企業側での ID 活用の事例を調査し、企業研修の良い点を取り入れる。
3. 学生の学習成果に対する検証。（ID を活用した授業の効果性）

職業実践専門課程と ID 活用との関係をより明確化し、企業の求める人材の育成に関して活用の幅を広げ、深めていくことが必要と考えている。以下、今回実施した事前研修、実証講座に関して、講師所感を記述する。

#### ・事前研修(e-learning)に関して

e-learning 受講者の満足度は、満足/とても満足が回答者中の 58%を占めた。「事前に学習できるのはとてもよかった」「非常にわかりやすかった」という意見、「もう少し詳しい説明や、事例があるとよい」という意見もあり、さらなる改善が必要である。

#### ・事前研修(事前アンケート)に関して

自分の授業が今どの程度 ID を取り入れられているかを確認するものであったが、今回「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発を行うにあたり、専門学校にて教鞭を執っている方々を対象に実証講座を受講しない人からも回答してもらった。結果、事前アンケートは 552 件の回答を得ることができた。どのような分野の教員が ID を取り入れているのか、企業経験の有無において ID の取り入れ方に差があるか、などを検証することができた。今回のアンケートはあくまで講座を受講する教員向けの事前研修としての位置づけだったが、広く全国の専門学校教員に対し、目的を持ったアンケートに回答してもらうことにより ID と職業実践専門課程の活用に役立てることができると考える。

#### ・実証講座に関して

アンケート結果から課題を抽出してみる。まず

「もう少し詳しい説明や、事例があるとよい」との声があった。分析図などは実例の充実が必要である。

「既存のシラバスを持参し、現状の改善点を知ることができるとなおよかったです。」との声があった。自分の作成したシラバスなどがあればそれを持参し ID によって改善していくというプロセスがあればなお分かりやすい。

「理論や原理系の授業における課題分析の例がなかった」との声があった。分析例の実例の充実が必要。

分析図の作成に於いて、ノートなどに作図をしてもらったが、ツール（PC・ポストイット）などを用意すれば作成が効率よく行えると感じた。また当日のグループ分けは教員の担当分野は加味せず、色々な人と意見交換ができるように所属をバラバラにして行ったが、結果として相互フィードバックの際に知らない分野ということで突っ込んだ意見交換ができなくなってしまった。ある程度の担当分野に於けるグループ分けが必要である。

- ・事後研修に関して

今回は実施していないため今回は課題に関しては特になし。今後の展望に関しては後記する。

## 今後の展望

今回の課題でも記したとおり企業との連携を図る上で ID 活用の必要性をより明確化、具体化し、継続的に現場で取り組む仕組みやその支援が必要である。そのためには、次回の教材開発において、以下の点を開発・実施側よりご提案したい。

1. 企業が求める人材とその人材を育てるための学習内容の合致性を高める。

企業の人材ニーズを学習目標に反映させる仕組みは、教育課程編成委員会で実現されている。その仕組みをより効果的に改善していくために ID の活用方法への理解を深め、賛同いただくように教材や講座をさらにブラッシュアップしていく必要がある。

2. 企業側での ID 活用の事例を調査し、企業研修の良い点を取り入れる。

既に ID を導入、継続活用をしている企業や学校の実例の収集、インタビューを実施し、活用や継続性によるメリットや課題、その他影響を調査し、職業実践教育に取り込むことを検討したい。

3. 学生への学習成果の検証

本調査では、教員が主な対象となっている。しかし、本質は、学生の教育効果がいかに高まったかがゴールである。1年目の ID 研修を受講した先生を中心に取材、調査を実施し、教育効果性を検証していきたい。

上記3点に集約されるが、今年度の成果や課題を踏まえて、より現場の先生方の活用に沿った内容のブラッシュアップを実施したい。事前研修、集合研修、事後研修（サポート）など、本教育全体をさらに精緻化、パッケージにし、現場での活用を促す教材に仕立てていく必要があると考えている。

以下、今回実施させていただいた以下の内容の今後の展望について、より具体的に記述していく。

- ・事前研修(e-learning 含む)に関して

今回は事前アンケートによる確認、e-learning による事前学習であったが、e-learning を受講した上でまず課題として分析図を提出してもらい、それを研修時に持参することによりさらなる理解を促すことができる。未実装の項目に関しても実装を進めていく。

- ・実証講座に関して

課題に挙げたポイントを改善することが必須。特に事例の充実、自シラバスを持参することによるより深い理解と作業の効率化はすぐにでも修正できるポイントである。

企業と密接に連携し、そこから得た知見や情報を教育課程、授業内容、授業運営に反映させるという企業連携性の視点で考えると、今回の講座の目標設定の箇所での具体的なやり方を示すことができなかつた。企業間との連携を行う上での ID 活用の必要をより明確化しなけ

ればならない、と記述したが目標の設定部分においてどのように企業と連携していくかを具体的なポイントとして今後の展望として模索し、導き出す必要がある。

・事後研修に関して

具体的改善点として3点を挙げたい。

アンケートフォームによる提出として、自分の授業でIDを取り入れた結果を確認し、アンケート回答すること

他事例の研究を他の教員のアンケート結果を確認し自担当の授業と比べてみることにより行うこと

コメントによる教員同士でのフィードバックを行い、今後の課題を明確にする

この3点を事後研修として4時間程度で行う。これにより継続的な教員のバックアップやPDCAの促進、コンテンツマネジメントシステムの導入による分野別ノウハウの蓄積、その蓄積を活かしたさらなる授業の品質向上と産学連携に繋げていく。

以上

## 第 8 章 実証講座評価

本事業において開発された研修教材と研修実施マニュアルにもとづいて、2014 年 12 月 18 日～19 日にインストラクショナルデザイン実証講座が、2014 年 12 月 20 日～21 日にアクティブラーニング実証講座がそれぞれ実施された。以下、両者の講義内容、講義方法についてそれぞれ評価を行う。

### 1. インストラクショナルデザイン実証講座の評価

#### 1-1. 職業実践専門課程制度との関連性に関する評価

平成 26 年度にスタートした職業実践専門課程制度の目的については、「職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成するため、特に職業に関連した企業、関係施設、業界団体等（以下『企業等』という。）との密接な連携を通じ、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組む専門課程を文部科学大臣が『職業実践専門課程』として認定し、奨励することにより、専門課程における実践的な職業教育の水準の維持向上を図り、もって生涯学習の振興に資することを目的とする」とされている<sup>1</sup>。しかし、職業実践専門課程の認定制度は、職業と関連した企業、業界団体との「密接な連携」に基づいた「より実践的な職業教育の質の確保」を要求してはいるが、そのための有効かつ具体的な方法論にまで踏み込んで指示しているわけではない<sup>2</sup>。

他方、本事業『職業実践専門課程の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証』では、「『職業実践専門課程』の認定基準である企業・業界団体等との連携による教育課程の編成や演習・実習の授業運営等を推進するための研修教材を複数分野を対象として作成するとともに、当該研修教材を用いた研修の実施マニュアルを作成し、実証のための研修を実施する」<sup>3</sup>ことが求められている。したがって、本事業で開発される「研修教材」「研修の実施マニュアル」「実証のための研修」は、職業実践専門課程制度に謳われた目的を実現するために、企業と密接に連携し、そこから得た知見や情報を教育課程、授業内容、授業運営に反映させるための具体的な方法論を概念的に含んでいるべきだと考えられる。この要件が本実証講座を評価する際の第一の評価観点となる。以下、実証講座の講義内容を記したテキスト（以下「実証講座テキスト」）にもとづき評価を行う。

---

1 専修学校の質の保証・向上に関する調査研究協力者会議『「職業実践専門課程」の創設について～職業実践的な教育に特化した枠組みの趣旨をいかした先導的試行～（報告）』, 2013 年 7 月 12 日, p.3, (傍点は引用者による)

2 教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会の開催を認定要件としてはいるが（同前, pp.5,10）、これらの会議の開催自体は、「より実践的な職業教育の質の確保」に有効かつ具体的な方法論であるとは言い切れない。むしろ、これらの会議をどのように実施すれば、「より実践的な職業教育の質の確保」に有効な知見や情報が獲得できるのか、さらにどのようにすれば、そういった知見や情報を実際の教育課程、授業内容、授業運営に正しく反映できるのか、そのための有効かつ具体的な方法論を究明することがなお課題として残っている。

3 「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」平成 26 年度「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証」公募要領(傍点は引用者による)

実証講座テキストでは、本実証講座の目的を「職業実践専門課程として企業等のニーズを取り入れるカリキュラム・シラバスの作成ができる教員の養成」であるとしている。その上で、インストラクショナルデザイン理論の適用について、(1)「学校の理念、輩出する人材像、教育目標などから、学科の到達目標」を定めること、(2)「学科の到達目標を達成するための科目群・科目を構成し教育課程」を定めること、(3)「科目の到達目標を網羅するように、半期、通年など、該当期間の科目の到達目標、内容、評価などを決めて、シラバス」を作成すること、(4)「一回の授業の目標、内容、流れ、評価基準などを決めて」コマシラバス(コマ単位の授業計画<sup>4</sup>)を作成することの4段階の手順を挙げている。

したがって、職業実践専門課程との関連性では、とくに「学科の到達目標」に関わる(1)と(2)の手順において、企業等のニーズを反映させるための有効かつ具体的な方法論が必要になる。

しかし、実証講座テキストは、インストラクショナルデザイン理論を適用して、一科目分の学習目標からシラバス、コマシラバスを作成する方法論については扱っているが、企業等のニーズを学習目標や教育課程へと反映させる方法についてはまったく教示していない。むしろ、企業のニーズを反映した学習目標や教育課程がすでに与えられた段階において、インストラクショナルデザイン理論を適用し、シラバス、コマシラバスを作成する方法論を扱っているだけである。

以上のことから、実証講座テキストについて、企業と密接に連携し、そこから得た知見や情報を教育課程、授業内容、授業運営に反映させ、実践的な職業教育の質を向上させる能力を養成する教員養成研修モデルのテキストとして適切かどうかという観点から評価した場合、十分な内容をもっているとはいえない。しかし、企業等のニーズと合致した学習目標、教育課程が完成された後で、専門学校教員が、どのように半期・通年科目のシラバスを作成し、その全コマ分のコマシラバスを作成するかという課題に関しては十分に応えることができている。

## 1-2. 専門学校教育分野への適合性に関する評価

インストラクショナルデザイン理論自体は、初等・中等・高等教育の特定段階や特定分野に限定されない抽象的な理論であり、専門学校教育分野にどのように適合させるのかという点について、理論の完成度とは別になお評価の余地を残している。

たとえば、同じインストラクショナルデザイン理論であっても、検定済み教科書と学習指導要領に拘束された初等・中等教育分野への適用と、そのような拘束がなく教育課程の形成も含めて自由度の高い高等教育分野への適用は、実務上まったく同じというわけにはいかない。初等教育に携わる教員がインストラクショナルデザイン理論を適用して、自由自在に6年間の教育課程や授業内容を計画し、実行に移すことは実務上不可能であるが、専門学校教員ならば(分野によって相対差はあるが)、比較的自由に教育課程や授業内容を構想し、実行に移すことができる。したがって、専門学校教員に対するインストラクショナルデザイン研

---

<sup>4</sup> 以後、「コマシラバス」は、すべて「コマ単位の授業計画」を意味するものとする。

修を効果的なものにするためには、専門学校教育分野の実務に則して一般的な理論をどう適用するかということが課題になる。この点が、本実証講座の第二の評価観点になる。

しかし、専門学校教育分野といっても、その教育内容はもちろん教育方法でさえも専門分野に応じて多様であり、一様に扱うことは困難である。だが、一定の人材目標あるいは学習目標に向かって教育課程が存在し、そこに複数の科目が含まれ、一科目ごとに半期あるいは通年にわたって複数のコマが含まれるという形式は、ほぼ同じなのではないだろうか。このように考えるならば、専門学校教員の一般的な実務のうち、インストラクショナルデザイン理論が影響を与えうる実務として、おもに、複数科目からなる教育課程を編成すること、科目ごとのシラバスを作成すること、科目を構成するコマシラバスを作成することが挙げられる。したがって、実証講座テキストが、インストラクショナルデザイン理論を専門学校教育分野における教育課程、シラバス、コマシラバスの作成にどこまで適合させられているかが問題である。

しかし、実証講座テキストは、教育課程編成の方法論については扱っていない。それは、実証講座テキストが、もともと企業等のニーズを学習目標や教育課程編成に反映させる方法を扱っていないことに起因する。他方、インストラクショナルデザイン理論に基づいた、課題分析図によるシラバス作成、ガニエの9教授事象によるコマシラバス作成については、その方法論を詳しく解説している。この形式化された方法論にしたがうことにより、シラバス、コマシラバスの作成品質に関して個人的な教員経験への依存性を軽減することができる。したがって、実証講座テキストは、シラバスとコマシラバスの作成に限定してではあるが、インストラクショナルデザイン理論を専門学校教員の实務に適合させることができていると評価できる<sup>5</sup>。

ただし、実証講座テキストにはもうひとつ別の問題がある。それは表現上の問題である。実証講座テキストでは、「学習目標」、「ロードマップ」、「授業計画」という用語が注釈なく使用されている箇所が多く、それぞれ、一科目分の学習目標、一科目分の内容展開、一コマ分の授業計画を意味していることが非常に分かりにくい。

たとえば、「学習目標」はそれ自体としては、教育課程全体の学習目標、科目単位の学習目標、コマ単位の学習目標というように様々な水準で捉えられる。「ロードマップ」、「授業計画」も同様である。こういった用語の曖昧さから、専門学校教員受講者が、実務上どの水準の事柄に適用できる方法論を学んでいるのか、講師が口頭で補わない限り、誤解したり疑問を感じたりする場面が少なくないと思われる。今回の実証講座ではテキストの内容に基づいた演習も含まれており、このことが演習実施に混乱を生じさせる可能性もある。実証講座テキストの表現上の問題は、実証講座の専門学校教育分野への適合性をやや損ねているといえる。

実証講座テキストがこのような問題点を含むのは、インストラクショナルデザイン理論のテクニカルタームがもともと専門学校教員の实務に特化したものではないことと、実証講座テキストがもともと多種多様な講師業従事者向けに開発されたテキストを原型としていることに起因するのではないと思われる。

---

<sup>5</sup> 実証講座テキストで扱われたインストラクショナルデザイン理論では、シラバス、コマシラバスとは別に「事前テスト」の実施を含んでいる。この「事前テスト」に関しては、専門学校教育分野において実務上、対応関係を見出しにくい。もし、これを制度的に導入しようとした場合、一般的な専門学校では相当の工夫が必要になるとと思われる。

### 1-3. 講座運営の妥当性に関する評価

これまでに挙げた観点については、実証講座の内容を規定するテキストからほぼ評価できるものだが、さらに講座運営に関する評価観点が考えられる。今回の実証講座が、講師がテキストの内容を淡々と解説するだけのものではなく、グループ単位の演習、討論、成果物発表を含むものである限り、企図したとおりの学習成果を引き出すためには、講師による適切な受講者マネジメントと適切なフィードバックが欠かせない。成果物発表の際に AV 機器を使用するならば、その利用方法にも工夫が必要になる。こういった点が、本実証講座の第三の評価観点になる。

この観点から評価した場合、今回の実証講座では、とくに成果物評価（受講者同士の評価、講師による評価）に関していくつかの問題点が見出された。成果物の評価は、受講者が講義内容にもとづいて実務に近い作業を実際に行えたかどうかを評価するもので、受講者にインストラクショナルデザイン理論に基づく方法論を正確に理解させようとした場合、必要不可欠である。

まず、受講者同士の評価に問題があった。実証講座のグループ分けは原則的に異なる専門分野の教員同士を組み合わせるように行われたが、その結果、グループ討論においてお互いの成果物（学習目標、ロードマップ、シラバス、コマシラバス）を評価しにくいという問題が生じた。実証講座で扱ったインストラクショナルデザイン理論に精通した者同士であれば、専門分野の違いを超えて成果物の相互評価を適切に行うことも可能だと思われるが、初学者である受講者同士では、お互いの専門分野の知識なしに成果物を適切に評価することは非常に難しいと考えられる。実際に、その場でグループごとの様子を観察したかぎりでは、相手の専門分野に関する説明を聞くのが精一杯で、お互いの成果物をインストラクショナルデザイン理論の観点から積極的に評価することはほとんどできていなかった。

また、ロードマップやシラバスの作成演習では、「受講期間が半期もしくは一年の科目」という条件が設定されたため、この想定でロードマップやシラバスを作成すると成果物はかなりのボリューム（文章量）となった。このことも、専門分野の異なる受講者同士の相互評価をさらに困難にさせる要因となった。

講師による成果物評価についても問題があった。成果物（学習目標、ロードマップ、シラバス、コマシラバス）は、受講者同士の評価の後に、グループ単位の発表を通して講師が口頭で評価を行ったが、そのつどの発表物に対するアドリブ的な評価の印象が強く、評価内容の中に作業上の一般的な注意事項やノウハウを見出すことが難しかった。もし、そのようなものがあるならば、事例に則した注意事項・ノウハウ集を事前配布した上で、それを参照しながら講師が受講者の成果物を評価したほうが受講者へのフィードバックという点で効果的だったのではないか。

また、グループ単位の成果物発表の際には、成果物を iPad で撮影し、その画像を会場内に設置したスクリーンに投影して行ったのだが、受講者の席からはスクリーン上の文字が判読しがたく、このこともまた講師による評価の共有を難しくさせる要因となった。

今回の実証講座では、講義だけでなく、インストラクショナルデザイン理論に基づく方法論の正しい理解と定着を狙って各種の演習（学習目標、ロードマップ、シラバス、コマシラバスの作成）を盛り込んでいた。しかし、成果物の評価が十分には行われなかったため効果が半減してしまった。

## 2. アクティブラーニング実証講座の評価

2014年12月20日～21日に開催されたアクティブラーニング実証講座（全12時間）を受講したが、アクティブラーニングとアクションラーニングについて、以下の3点から評価を試みたい。

### 2-1. 教育手法としての実効性

2014年12月に中央教育審議会は「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」をまとめた。

それ以来、知識の修得を基本とする受け身的な教育から能動的な学習へと転換を図ろうとする動きが急である。小中学校で進む学習方法の転換の延長線上に高大でも能動的学習の実現を目指そうとしている。

こうした、流れからすると専門学校での学習方法にも生徒・学生が能動的に知識やスキルを修得していく新たな教育手法が求められていることは論を待たない。その一つの方法論としてアクティブラーニングを活用していくことは有効なことであろう。特に、グループダイナミズムを使いながら、個人の学習意欲を喚起し課題の解決を図ることは、以前から企業研修では有効性が実証されており、特に新しい手法ではない。

ただ今回の講座で、1日目に学習するアクティブラーニングは目標の明確化、グループ学習、リフレクションなどの一連のプロセスを重視する学習手法である。これに対して、2日目のアクションラーニングは課題を共有し合いながらグループ学習を行い、そのプロセスの中で組織全体に学習する力をつけるという組織開発の手法である。

この異なる2つの目的や概念が、教員に能動的学習の手法を学ばせるという同じ講座の中で、どのように整理され関連づけられているかは明確にはならなかった。講座受講前にこの2つが、どのように連携しあっているのか、教育手法としてどのように統合されているのかに疑問を持ったが、最後までこの疑問はぬぐえなかった。また、この2つを同時にしなくてはいけない理由もはっきりしなかった。

多分、この講座には教員に能動的な学習方法を修得させるという目的と、教室を学習する組織にしていく手法を修得させるという目的以外に、生徒・学生が社会人になった時に、課題を共有化して問題解決できる人材を育成する手法を修得させるという、いくつかの異なった狙いが混在しており、厳密な意味で事業目的に沿っているかは不明である。

したがって、一般の教員は頭の中では曖昧なままに終わり、明確に整理されて理解できるのであろうかという懸念が残った。そのため、概念やコンセプトのきちんとした整理が必要であると思われる。

## 2-2. 教員の資質を向上させる観点

講義を中心にして、知識やスキルの付与を重視した教育手法を転換することは、専門学校  
の教員にとって、かなりの覚悟がいることであろう。その意味では、アクティブラーニング  
は教育手法の意識変革を起こさせる上で、有効な誘引になると思われる。(教育手法として  
は、アクションラーニングの位置付けは今後の課題)。

しかしながら、アクティブラーニングはその解釈も手法も様々であり、また、教育現場や  
環境によっても、その有効性はまちまちであるので、どれが専門学校の教員にとって受け入  
れやすく、有効なのかについて慎重な議論をする必要があろう。

特に、今回の講座では講師自身の経験知と個人技に依るところが大きく、リーダーシップ  
論、コーチング論、チームビルディング論、KJ法、ファシリテーション手法などが盛りだ  
くさんになっていて、それらの様々な学習体験を経て、今日の手法を体得したものと思われ  
る。体系的にすっきりとまとまっているとは言い難く、テキスト内容も整理されていないた  
め、一般的に他の教員がそうしたスキルを身につけるには、より一般化し汎用化することが  
必要である。

したがって、専門学校でのアクティブラーニングはいかなるものかの基本的議論をきちん  
と詰めてから、教員への指導活動をしていく必要があると思われる。また、こうした取り組  
みを外部に委託するのではなく、外部の力を借りながらも教員自身が知恵と汗を出し合いな  
がら、自分たちのものとして作り込んでいかないと(すなわち、アクションラーニングして  
いかないと)、新しい教育手法は本当の意味で、教員に身に付かず現場に根づきにくいと思わ  
れる。

## 2-3. 職業実践専門課程との関連性

2013年7月に「『職業実践専門課程』の創設について」が報告された。その中で、教員の資  
質向上について、「企業等との連携の下、職業に関連した実務に関する知識、技術及び技能並  
びに、授業及び学生に対する指導力等の修得・向上のための組織的な研修機会を確保する取  
組を評価する」としている。

こうした意図を考えると、教員に新たな教育手法や教員の指導力を身につけさせる研修と  
いう意味で、アクティブラーニング講座を行うことは意義のあることであろう。ただ、職業  
実践専門課程創設の目的を考えると、企業との連携を強く意識しており、研修でもそうした  
面での取り組みを求めている。

したがって、今回の講座においても、企業と何らかの形で連携していくことが望ましく、  
やり方はいろいろと工夫出来るが、プログラム開発や運営に大学や高校の教員の協力だけ  
でなく、企業人との協働にも取り組んだ方が、より職業実践専門課程の構想に適っていると  
思われる。

### 3. 実証講座の評価総括

実証講座を評価する限り、本事業のふたつの分野（インストラクショナルデザインとアクティブラーニング）では、教員養成研修モデルとしての完成度がかなり異なっている。

インストラクショナルデザイン研修に関しては、研修テキストの表現上の問題（実務との対応関係が不明瞭）と研修運営上の問題（演習の成果物評価が不十分）、後述する職業実践専門課程制度との関連性に関する問題を除けば、インストラクショナルデザイン理論に基づいてシラバスとコマシラバスを作成する研修としてほぼ確立できているといえる。研修テキストを専門学校教員の実務に合わせて修正し、演習の成果物の評価方法にもう少し工夫を加えれば、十分に専門学校の教員養成研修として成立できる。

しかし、アクティブラーニング研修に関しては、研修の有効性よりもむしろ、研修が準拠すべきアクティブラーニングの理論、方法論、範例自体が不明瞭で、専門学校教員向けの一般的研修内容としては疑念を抱かせるものであった。ただし、これは本事業における瑕疵というよりも、アクティブラーニングという手法が行政、教育、マスコミ関係者の注目に反して、理論的にも方法論的にも確立しておらず、一般化が可能なほどに効果が十分に証明された成功事例も見出しにくいことに起因するものと思われる。したがって、現時点でアクティブラーニングに基づく教員養成研修モデルを完成させることは難しいといえる。

さらに、両者に共通な課題もある。職業実践専門課程制度で謳われている企業等との連携性が弱いという点である。これは本事業の題目『職業実践専門課程の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証』に関わる重要な問題である。しかし、インストラクショナルデザイン研修に関しては今後の改善課題が明確であり、インストラクショナルデザイン理論に基づいて、企業のニーズを学習目標、教育課程に反映させる方法論を確立し、それを研修として組み立てればよい。拡大されたインストラクショナルデザイン研修では、シラバス、コマシラバスだけでなく、企業ニーズの取り込みと教育課程の形成が方法論の一部として組み込まれるはずである。他方、アクティブラーニング研修では、企業との連携性を組み込むことは前述の問題により容易ではなく、まず有力なアクティブラーニングの理論、方法論を見出す必要がある。

### 4. 今後の展望

職業実践専門課程制度では、企業と連携して教育課程を編成するための教育課程編成委員会の設置が義務づけられている。たしかに、企業関係者を集めて教員とともに教育課程編成委員会を開催することはそれほど困難ではない。しかし、実践的な教育課程編成に資するような教育課程編成委員会の一般的な運営方法が確立し、普及しているわけではない。教育課程編成委員会において、どのように企業情報を収集し、どのように教育的立場から評価を下すのか。そこからどのように教育課程を組み立てるのか。これはインストラクショナルデザインにとって範疇外の対象を含むかもしれないが、この過程とシラバス、コマシラバス作成を連続したひとつの方法論として確立できたときに、インストラクショナルデザイン研修は、文字通り、「職業実践専門課程の推進を担う教員養成研修モデル」として完成することができる。

他方、アクティブラーニング研修に関しては、まず、効果が十分に証明されたアクティブラーニングの成功事例を見出すことから始めなければならない。もちろん、専門学校教育分野から発見されれば理想的である。その成功事例から職業教育一般へと応用できる要素を見出し、専門学校教育分野に一般的に適用できるひとつの方法論を確立することが必要である。専門学校教育分野に適用する場合の限界や制約も見出す必要がある。アクティブラーニング研修が企業との連携性を追求するのは、さらにその次の段階の作業ではないかと思われる。